



最新マンスリーecoニュース&トピックス

・最近のニュース

平成20年度の一般ごみ総排出量4,811万トンに減少、

1人1日の排出量も1,033グラムに減少

2010.4.16/環境省
環境省は、平成22年4月16日付けで、平成20年度の全国の一般廃棄物(ごみ・し尿)排出及び処理状況の調査結果についてとりまとめ、公表した。公表によると、平成20年度のごみ総排出量は、前年度の5,082万トンより5.3%減少した4,811万トンで、1人1日あたりのごみ排出量も前年度の1,089グラムより5.1%減少し1,033グラムとなった。ごみ総排出量は平成12年度以降継続的に減少し、1人1日あたりの排出量もピーク値の平成12年度から約12.8%減少した。一方、市区町村などによる資源化と住民団体などによる集団回収とを合わせた総資源化量(再生利用量)は、978万トン、リサイクル率は20.3%であった。総資源化量は前年度と比べ減少しているが、ごみ総排出量が減少しているためリサイクル率は横ばいとなっている。尚、ごみ総排出量が減少したことにより、最終的処分量も前年度の635万トンから12.9%減少し553万トンとなり、最終処分場の残余年数は、前年度15.7年から18年と増加したが、残余容量は、最終を示した。

環境法改正情報

■法定多量排出事業者の届出期日について

廃棄物処理法で定める多量排出事業者とは、前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上である事業場又は前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上である事業場を設置している事業者をいう。多量排出事業者は、産業廃棄物処理計画の作成と提出、その実施状況の報告が義務づけられている。各自治体により、前年度排出基準が定められている事があるので、注意が必要。

▶▶▶ ポイント

書類の提出期限は、当該年度の6月30日。産業廃棄物処理計画の作成単位である事業場が所在する区域を所管する都道府県知事に提出をする(窓口は各行政に、要問い合わせ)。

Ecobiz/ecolife エコBiz/エコライフ いまさら聞けない「家電・住宅エコポイント制度」 Series.1

家電エコポイント制度とは、地球温暖化対策、経済の活性化及び地上デジタル対応テレビの普及を図るため、グリーン家電の購入により様々な商品・サービスと交換可能な家電エコポイントが取得できるものです。

住宅エコポイント制度とは、地球温暖化対策の推進及び経済の活性化を図ることを目的として、エコ住宅を新築された方やエコリフォームをされた方に対して一定のポイントを発行し、これを使って様々な商品との交換や追加工事の費用に充当することができる制度です。

日本の二酸化炭素排出量の約14%を占めるのは、家庭という統計が出ている(2008年値)。家庭から出るCO2は、1990年度の温室効果ガス基準値、1,059百万トンに対し、2008年度の速報値によると、1,138百万トン、増減率+34.7%である。この状況を受けて政府は、家庭における地球温暖化対策として、暮らしを省エネ化するいくつかの事業費を計上、これを受けてできた制度が、家電エコポイント制度である(2009.5月より実施)。その後、住宅エコポイント制度が2010.3月より実施された。その背景には、改正省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)が深く関わっている。省エネ法では、工場や事業場のエネルギー管理をはじめ、電気機器などの省エネ基準における「トップランナー基準」や、建築等の分野における省エネ対策等では具体的な基準が定められている。経済産業省は、省エネルギーセンター等で調査や研究を行いながら、次世代省エネ対策として、この間も大幅にエネルギー消費量が増加している業務や家庭部門における省エネ対策を強化すべく、2008年には、改正省エネ法として新たな法案が国会に提出された。(2009年4月施行)。省エネ法の最大の狙いは、CO2削減目標達成にあるのだが、その目標が思う様に進まない日本政府は、改正省エネ法により、一般家屋も巻き込む形で更なるCO2削減を推進した。

営業に役立つ 環境用語と豆知識 【トップランナー基準】

改正省エネ法に基づき、自動車の燃費基準や電気・ガス石油機器(家電・OA機器等)の省エネルギー基準を各々の機器においてエネルギー消費効率が現在商品化されている製品のうち、最も優れている機器の性能以上にするという考え方。

走れ! エコエイトマン 京浜島リサイクルセンター
今回はKRCの主要機械をご紹介します。

※罰則と判別はvol.11までお休みします。

KC65W-150型 破碎機
廃プラスチック類、鉄くず、木くずなどの混合廃棄物を日量199トンの破碎処理能力を有している、破碎粒度は150mm以下とし、排出時の減容化を計り主に熱源並びに固形燃料として搬出します。

圧縮梱包機
廃プラスチック類、繊維くず等を分別し、3分の1に圧縮梱包して運送コストとCO2の削減。主に固形燃料、セメント原料として排出します。

ビニール洗浄機 京浜島リサイクルセンターから発生するごみ袋、ビニール袋等を手作業で分別。破袋洗浄機により品質を高め製造業者へ原料として納入。再生された袋は当社指定ごみ袋として使用します。

